

## 身近な「くすり」の話 vol.3



第3回も、前回に引き続き感染症とのたたかいについて紹介します。

今回は細菌ではなく、ウイルスとのたたかいに注目し、近年、画期的な「くすり」が開発されているC型肝炎という肝臓の病気と、身近なウイルス感染症であるインフルエンザについて見てみよう！

## 細菌とウイルスなにが違うの？



細菌

1mmの1/1000程度

10~100:1

大きさの比較  
種類によって多少の違い有り



ウイルス

細菌の1/10~1/100程度

## 病気の原因となる細菌とウイルス

細菌とウイルスは、ともに目に見えない小さなものですが、大きさ以外にも、その特徴はずいぶん違います。



細菌



ウイルス

増殖の仕方	体の中で定着し、細胞を分裂させながら自ら増殖	単独では増殖できないので、人の細胞の中に侵入して増殖
治療薬 (予防薬)	抗菌薬 (予防：ワクチン)	抗ウイルス薬 (予防：ワクチン)
主な病原体	ブドウ球菌、大腸菌、サルモネラ菌、結核菌、緑膿菌、コレラ菌など	ノロウイルス、ロタウイルス、インフルエンザウイルスなど
主な感染症	感染性胃腸炎、中耳炎、結核、破傷風、敗血症など	インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、肝炎など

## C型肝炎ウイルスとのたたかい～新たな治療薬の登場～

C型肝炎は、C型肝炎ウイルス（HCV）の感染によりおこる肝臓の病気です。HCVに感染するとおよそ70%の人が持続感染者となり、慢性肝炎、肝硬変、肝がんへと進行してしまいます。

これまでは、インターフェロンという「くすり」を使いながら、長期にわたって治療を続けるしかない人が多くいましたが、2015年に効果が極めて高く、治療期間も3ヶ月という画期的な「くすり」が登場しました。

この「くすり」により、95%以上の人でウイルスを体内からなくすることができるまでになったのです。

肝炎情報センターサイトより引用

画期的（かっきてき）な「くすり」ですが、価格が高いことが問題にされています。画期的な「くすり」を生み出すには、多くのお金と時間がかかるので、「くすり」の価値をしっかりと評価して価格に反映（はんえい）するための検討（けんとう）がされています。



## インフルエンザウイルスとのたたかい

### インフルエンザってどんな病気？

インフルエンザは、主に咳やくしゃみの際に口から飛び出す小さな水滴（飛沫）による飛沫感染から起こる病気です。

38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身のだるさ等の症状が比較的すぐに現れるのが特徴です。

併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。小児ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している人では肺炎を伴う等、重症になることがあります。



インフルエンザウイルスは、A型、B型、C型に大きく分類され、大きな流行の原因となるのはA型とB型なんだ。



### インフルエンザの予防

手洗い・うがい・マスクが感染予防の基本ですが、流行シーズン前にワクチンを接種することも推奨されています。

インフルエンザワクチンは、感染後に発症する可能性を減らす効果と、発症した場合に重症化することを防ぐのに有効です。

ワクチンの効果ですが、国内の研究によれば、65歳以上の高齢者福祉施設に入所している高齢者については34～55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果が報告されています。

厚生労働省 平成29年度今冬のインフルエンザ総合対策サイトより引用



厚生労働省HPより引用

### インフルエンザの治療

以前から、A型には有効な治療薬はありましたが、近年、B型にも有効な治療薬が誕生しています。抗インフルエンザウイルス薬の服用を適切な時期（発症から48時間以内）に開始すると、発熱期間は通常1～2日間短縮され、鼻やのどからのウイルス排出量も減少します。

厚生労働省 平成29年度今冬のインフルエンザ総合対策サイトより引用

「感染症とのたたかい」では、人類が古くから悩まれてきた感染症に対して、「くすり」の力で命を救い、人々の安心で安全な暮らしに貢献してきた様子を紹介しました。

これまで紹介してきた「くすり」以外にも沢山の「くすり」が開発され、多くの感染症に対して使用されています。また、予防の為にワクチンを接種することによって、天然痘のように完全に無くすことができた感染症もあります。（WHO：世界保健機関が1980年に世界根絶宣言）しかしながら、まだ有効な「くすり」のないウイルスも多くあります。

次回は、このような「くすり」がどのようにして生み出されるのか、その研究と開発について紹介します。

